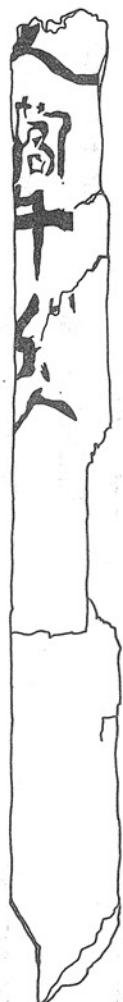


京都・定山遺跡

定山遺跡の調査は、ほ場整備事業に伴う事前調査で、一九七八年より一次にわたり実施された。その結果、縄文時代から鎌倉時代に至る各時期の複合遺跡であることが判明した。



(宮津)



木筒が発見されたのは、第二次調査で検出された井戸跡からである。この井戸跡は、砂を掘り下げた後に一抱えもある花崗岩の自然石を組み、そのすき間を拳大から人頭大の石で固めた構造のものである。井戸跡からは、木筒のほかに下駄や曲物・箸・漆器椀等の木製品が多数出土した。なお、井戸跡以外の地点から人形、斎串も出土した。

8 木筒の釈文・内容

(1) ×人□千□□□

(313)×(33)×3 081

9 関係文献

岩瀬町教育委員会『定山遺跡発掘調査報告書』(一九七九年)
同『定山遺跡第一次発掘調査報告書』(一九八〇年)

(堤 圭三郎・大槻真純)

- 1 所在地 京都府与謝郡岩瀬町字弓木
- 2 調査期間 一九七八年(昭53)一〇月～一一月、一九七九年
(昭54)一〇月～一一月
- 3 発掘機関 岩瀬町教育委員会
- 4 調査担当者 堤 圭三郎・大槻真純
- 5 遺跡の種類 集落跡・古墳他
- 6 遺跡の年代 縄文時代～鎌倉時代
- 7 遺跡及び木筒出土遺構の概要

定山遺跡は、大江山に源を発する野田川が、宮津湾に注ぐ河口近

い左岸台地上に位置する。

この台地は、標高四〇mから五〇mに及ぶ急傾斜地で、現在は水田として利用されている。